

明るい子 かしこい子 たくましい子

元気がある 夢がある 楽しい学校 中央小



中央小だより

令和6年度 11月号

蕨市中央6-8-25

TEL 442-2672

| 児童数 | (名) |
|-----|-----|
| 計 | 390 |

かけ算九九よもやま話～日本人に愛されている九九～

校長 はらだ 原田 たくじ 卓治

2年生では「かけ算九九」の学習をします。

さて、9月上旬に、2001年に発見されていた木簡が、実は日本最古級の「かけ算九九の一部が記載された木簡」であるというニュースが報道されました。過去、断片的に木簡は発見されていましたが、今回のようにまとまった九九が記載されているのは初めてのことだそうです。発見された場所は、飛鳥時代の藤原京があった場所です。この場所から推察すると、役所などで使われた実用的な九九表で、当時の役人が人や物の数を数えたり、役人の出勤日数を数えたりするのに使用していた可能性があるとのこと。

この木簡を見てまず違和感を覚えたのが、九九表の記載順です。まず、「九九81」から始まり、「八九72、七九63、六九54……」というように、「かける数である九」が固定され、「かけられる数」が九、八、七、六と下っていきます。

我々や今の子供たちが学んでいる九九は、「二一が2、二二が4、二三が六……」と「かけられる数二」が固定され、「かける数」が一、二、三、四……と上がっていきます。

なぜ、昔は今と異なる順になっているのかについては、諸説あるようで、この九九表は、「秘密にすべき重要な表」であるから、わざとわかりにくく記載したとの説もあるようですが、真実はわかりません。九九表は、中国から伝わってきたものなので、「中国での由来」があると思われます。

ところで、この九九は日本人にも親しまれていたようで、奈良時代に編さんされた、日本最古の歌集「万葉集」でも、その様子が伺えます。例えば、「十六」と書いて「四四」と読ませたり、「八十一」と書いて「九九」と読ませたりしています。更に江戸時代でも、当時の「二八そば」が「十六」文(もん)で売られたことから、その名がついたという説もあります。また、月の「十五夜」を「三五の月」と言ったりもしますね。

現在、2の段～9の段の九九(この順番通りには学習しません)の学び方・覚え方は、今回発見された九九の順番とは異なります。このような、現在の九九の学びは、私が考えるに「覚えやすいこと」や、5・6年生で学ぶ「比例の学習」に結びつきやすいことが挙げられるのではないかと考えています。

いずれにしても、こうした九九の歴史を豆知識として知っておくことも、九九の学びを自ら学ぶことにつながるのではないかと考えます。

楽しく、そして算数的な学びを十分に身に付けながら、2年生には九九を学んで欲しいと思います。